

居住地周辺の社会的及び地理的環境が糖尿病発症に与える影響の評価：3年間の縦断研究

福岡県保健環境研究所

西 巧

要旨

糖尿病は我が国を含め、世界各国で重要視されている慢性疾患であり、個々人の肥満、食事、運動習慣や家族歴、さらには社会経済的要因も糖尿病の危険因子であることが広く知られているが、近年ではこれらに加え、居住地周辺の環境と2型糖尿病との関連についても広く認知されている。しかしながら、我が国においては、これらに関する知見は乏しく、多くの研究は横断研究であるため、これらの因果関係は明らかではない。

そこで、本研究は、居住地周辺の社会的及び地理的環境が糖尿病発症に与える影響を評価するためにA市国民健康保険加入者のうち、2011年度に特定健康診査を受診した加入者のうち、糖尿病でなく、脳血管疾患、心血管疾患、慢性腎不全の既往歴のない2,094名を3年間追跡した。

居住地の単位は16の小学校区とし、地理情報システムから得られたコンビニエンスストア事業所数、都市公園数、メッシュ当たり平均傾斜角度を社会的・地理的環境の代理指標として用いた。特定健康診査の検査項目と問診票に含まれる項目を調整した上で、コンビニエンスストア事業所数とメッシュ当たりの平均傾斜角度と糖尿病発症リスク増加との有意な関連が認められた。

本研究の結果から、効果的・効率的な保健事業の実施のために小地域毎の社会的・地理的環境に焦点を当てることも重要である可能性が示唆された。